

#### 4. 調査結果のまとめ

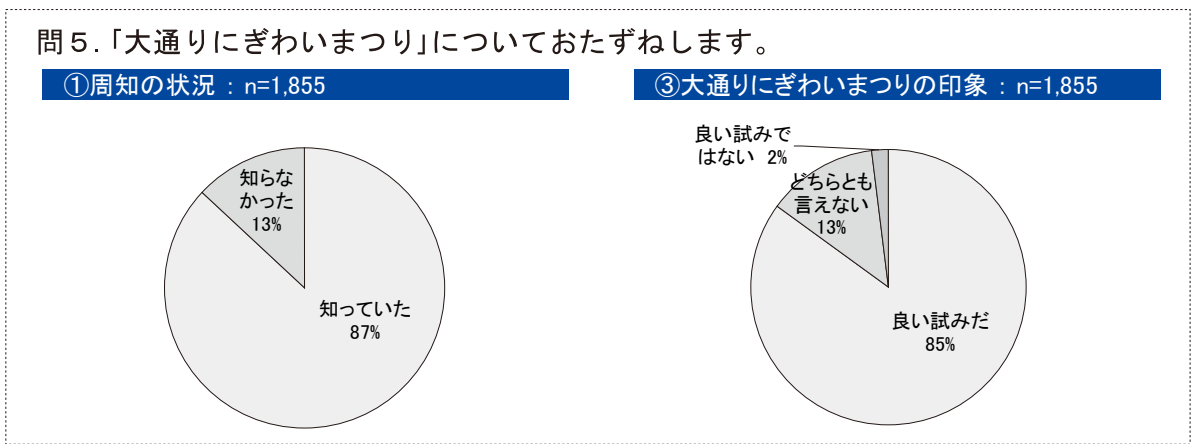
##### (1) 道路路空間を活用した中心市街地のにぎわい創出について

###### ①大通りにぎわいまつりの開催状況

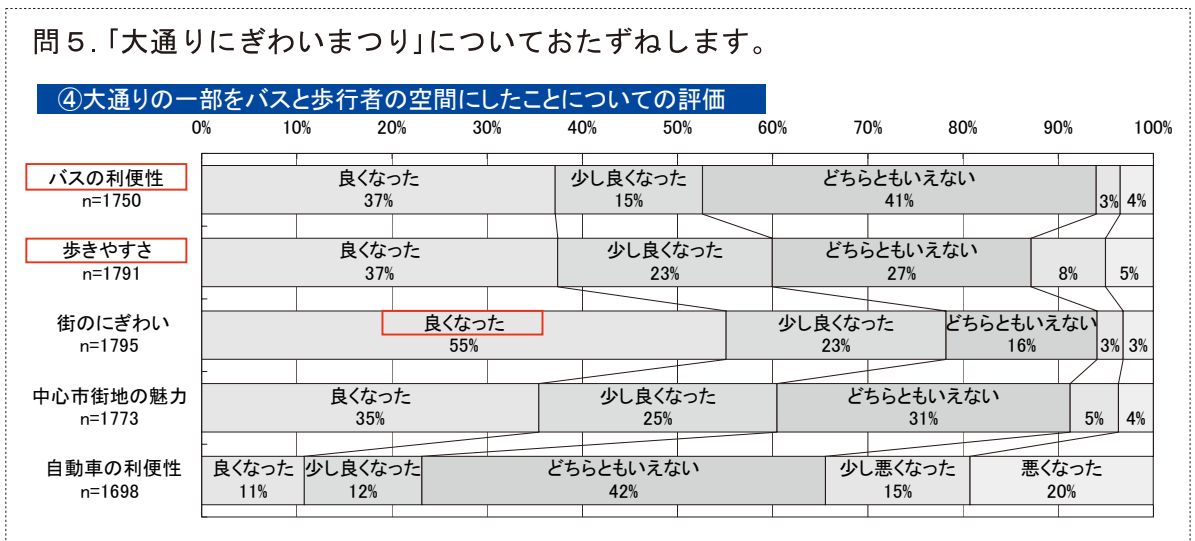
- 地元商店街を中心に、20 団体、36 店舗が参加した。
- 11 月 4 日(土)が約 4 万人、11 月 5 日(日)が約 5 万人、延べ約 9 万人の来場者数があり、予想以上の賑わいであった。
- ➡餃子祭りや宮の市、ミヤ・ジャズ・イン 2006 と同日に開催されたことにより、中心市街地に回遊性が生まれた。

###### ②来街者からの評価

- 来街者アンケートの結果：
  - ・今回のイベント開催を 87%の方が事前に知りながら来場し、85%の方が「良い試みだ」との印象を持った。



○大通りの一部をバスと歩行者の空間にしたことについての評価：



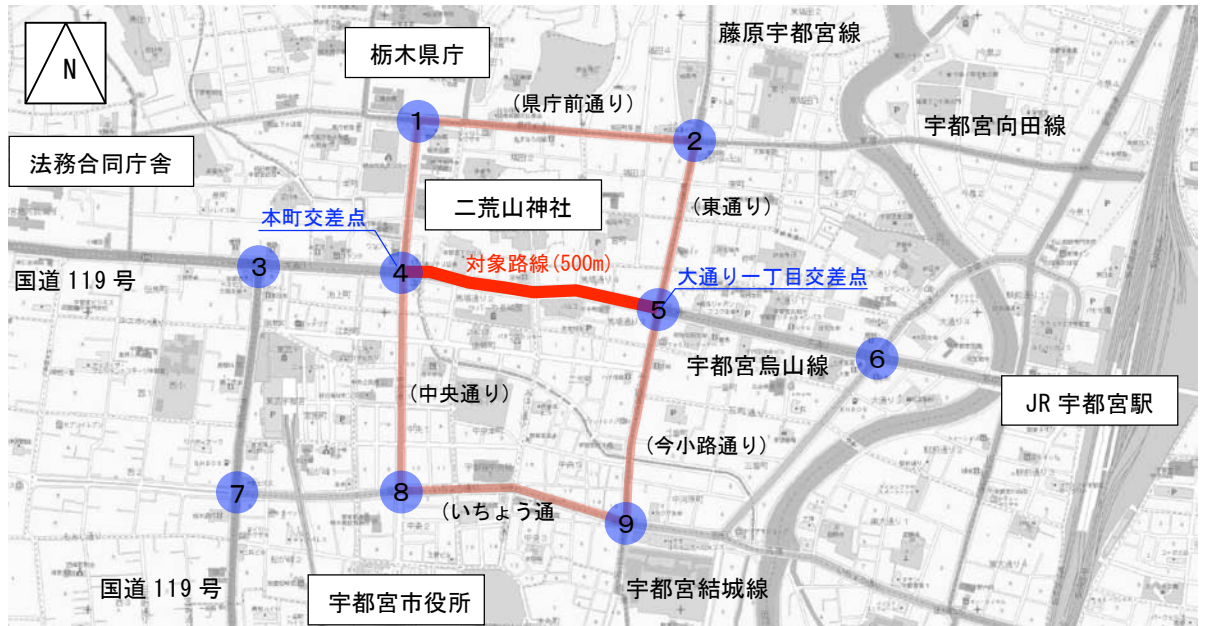
➡全体的に、「良くなった」とする意見が多く、特に、街のにぎわいが良くなったとの回答が多かった。

(2) トランジットモール化(車線規制)による自動車交通や商店街への影響について

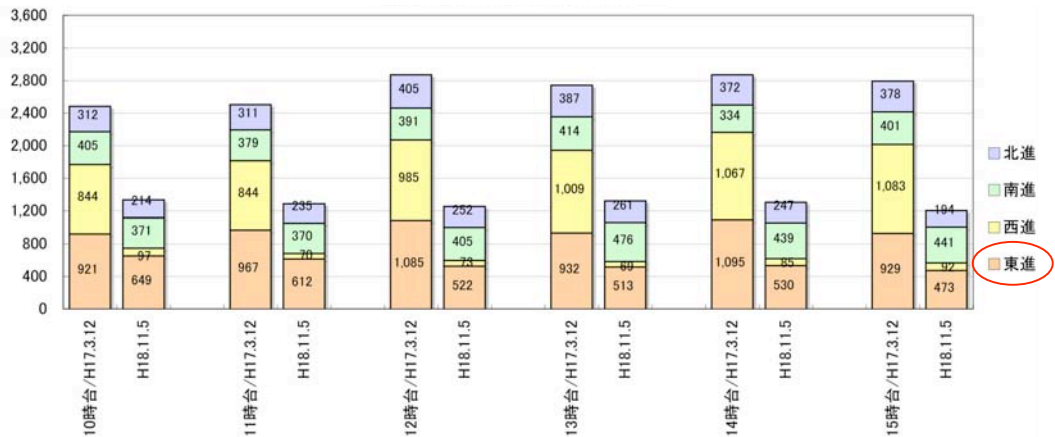
① 大通り交通量についての結果と評価

○ 今回の社会実験はトランジットモールでの実施であり、規制交差点でどのように交通量が変化したかを見る。

【 交通量調査場所 位置図 】



・ 交差点 4 (東進流入交通量[池上町交差点→本町交差点]) : 普段の概ね 5~6 割



・ 交差点 5 (西進流入交通量[上河原交差点→大通り一丁目交差点]) : 普段の 5 割前後



- 本町交差点、大通り一丁目交差点では渋滞が発生し最大渋滞長がそれぞれ 270m、365m。
- 渋滞に対する事務局・本部への苦情や問い合わせなし。

➡宇都宮市の中心市街地の道路網が大通りを中心として格子状に構成されており、対象区間の手前で迂回できる幹線道路があることや、事前の告知等 PR、誘導や PR を確実に行えば、大通りにおいても車線規制が可能であることを示した。

## ②周辺道路交通量についての結果と評価

- 特に県庁正門前交差点東側の八幡山公園通り線交差点を起点とした七五三参拝渋滞が午前 10 時台から発生し、午前 11 時台で 1,500m 超(最大渋滞長)となったが午後にかけて収束。
- 4 車線のいちょう通りでは目立つ混雑は発生せず、市役所前交差点で 12 時台に約 15% 交通量が増加するが、その他の時間帯は普段の交通量と同等で渋滞長も最大で 65m。
- 南北方向の幹線道路では、数カ所の迂回路が利用されて一路線に集中しないため、多くても 2~3 割の交通量増加にとどまった。

### 【最大渋滞長図(平成 18 年 11 月 5 日(日)午前 11 時~午後 3 時)】



- ➡イベント当日が七五三参拝の特異日となり、普段は二荒山神社駐車場への主要アクセスとなる大通りが交通規制された影響を県庁前通りが受けたが、その他の幹線道路は迂回路としての役割を果たした。
- ➡特にいちょう通り(4 車線)のキャパシティの高さが証明された。

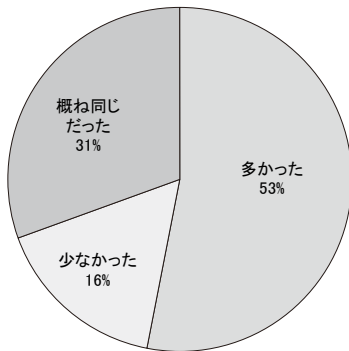
### ③商店主からの評価

○商店主アンケートの結果：

- ・通常の週末より今回のイベント開催中の来客数が「多かった」と回答した商店は53%、「少なかった」と回答した商店は16%あり、業種や購買客層などによる差が出ている。
- ・同じく売上げ額が「多かった」商店は45%、「少なかった」商店は19%となり、人出とともに増加した来客数と売上げ額が必ずしも整合していない。
- ・業種別に見ると、飲食店では来客数・売上げ額ともに普段より「多かった」は90%であったが、販売店では来客数が「多かった」が45%、売上げ額が「多かった」が35%であった。

問1. 通常の週末に比べて、「大通りにぎわいまつり」開催中の来店客数はどうでしたか？

○来客数：n=49



■来客数の定量的評価

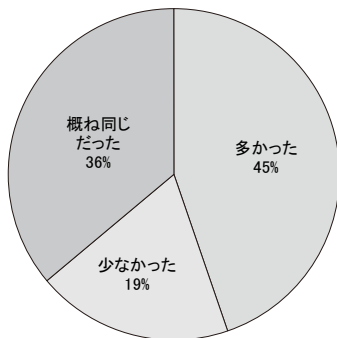
評価	平均値
割合の全体平均 (n=22)	5.6 割 増
人数の全体平均 (n=10)	89.7 人増加

■来客数の定性的評価の割合

評価	サンプル数	割合 (%)
多かった	26	53.1%
少なかった	8	16.3%
概ね同じだった	15	30.6%
計	49	100.0%

問2. 通常の週末に比べて、「大通りにぎわいまつり」開催中の売上げ額はどうでしたか？

○売上げ額：n=47



■売上げ額の定量的評価

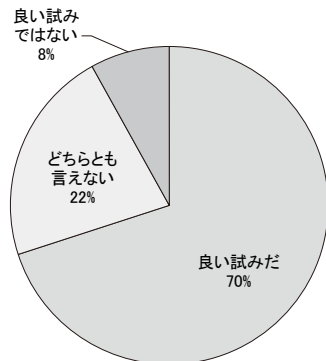
評価	平均値
割合の全体平均 (n=21)	8.0 割 増
売上げ額の全体平均 (n= 8)	5.5 万円増

■売上げ額の定性的評価の割合

評価	サンプル数	割合 (%)
多かった	21	44.7%
少なかった	9	19.1%
概ね同じだった	17	36.2%
計	47	100.0%

問4 大通りの道路空間を利用した今回の「大通りにぎわいまつり」の印象はどうでしたか？

○大通りにぎわいまつりの印象：n=50



■大通りにぎわいまつりの印象の割合

評価	サンプル数	割合 (%)
良い試みだ	35	70.0%
どちらとも言えない	11	22.0%
良い試みではない	4	8.0%
計	50	100.0%

➡ 今回のにぎわいまつり開催に対する評価：

- ・70%が「良い試みだ」との印象を持ち、「良い試みではない」は8%と低かった。
- ・大通り沿道の中心商店では74%、周辺商店では57%が「良い試みだ」と回答しており、イベント会場との距離に応じて印象に差が出ている。

#### ④荷捌き状況についての評価

- 事前から大通り沿道の事業所・商店主に対して交通規制時間外(規制前・規制後)の集配を依頼していたため混乱等の問題は発生しなかった。また、配送時間を前後にずらした、別の日に配送を依頼した、などの対応・工夫がされた他、事前に情報を知っていたので問題なかったという声も多かった。
  - 配送業者からは、前側の道に止めて台車を使用した、オリオン通り南側から配送した、とにかく時間が大幅にロスしたため謝罪しながら配送したなどの意見もあった。
  - 問題提起として、雨の場合の対応、駐車場との距離の問題などがあげられた。
- ➡当日は臨時荷捌き所を設置したが、利用頻度は少なく、アンケートに書かれているように商店側での工夫や対応で問題なく処理していたようであるが、配送業者側からの意見・要望なども参考とする必要がある。

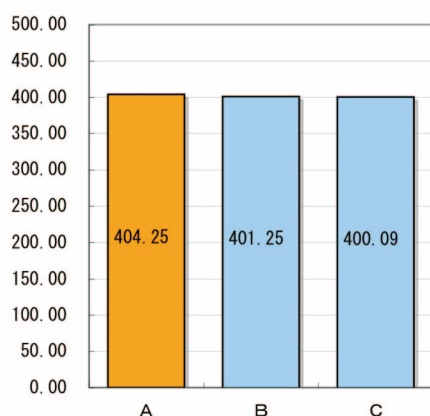
#### ⑤大気環境についての結果と評価

- 大気環境については、宇都宮市で計測している2日間の大気データを入手し、平常時のデータとイベント時のデータを比較して評価した。
  - ・イベント時：平成18年11月4,5日 午前10時～午後4時の6時間平均値 A
  - ・平常時(1)：宇都宮市既往調査結果(平成17年度全土日の同6時間平均値を作成) B
  - ・平常時(2)：宇都宮市既往調査結果(平成17年11月5,6日の同6時間平均値を作成) C
- 今回のトランジットモール化による平常時との明確な差異は見られないが、来街者アンケート結果から自動車での来街が4%減少している。

#### 【各調査項目の計測データの比較】

##### ①二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)

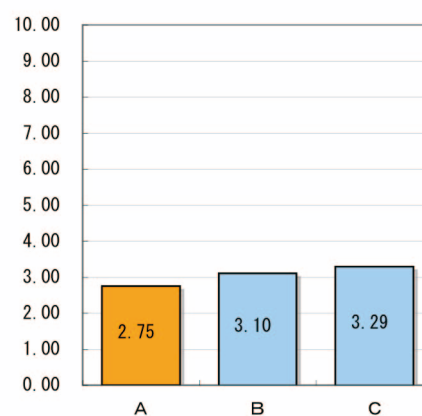
単位：ppm(100万分の1)



計測地点：中央小学校(CO<sub>2</sub>についての調査は市内で中央小学校1箇所のみ)

##### ②二酸化硫黄(SO<sub>2</sub>)

単位：ppb(ppm×1/1000、10億分の1)



計測地点：大通り沿線(TDビル屋上)

- ➡環境負荷の削減に向けては、広範囲なエリアでの自動車利用の抑制と公共交通の利用促進、トランジットモールの導入とあわせた公共交通ネットワークの整備が必要となる。